

(1)出題方針

2026年度の国語の出題は、全ての日程で現代文一題、古文一題であった。現代文・古文ともに、文章を読み、選択肢で解答する設問が4～6問、記述式の設問が1問である。記述式は現代文が40字、古文が30字で解答する形式となっている。配点は現代文が90点、古文が60点、試験時間は75分であり、この構成は、近年ほぼ変わっていない。

現代文は、いずれの日程も論説の出題であり、例年の傾向通りである。内容は、文学・文化・芸術・社会・歴史・情報・自然科学など多岐にわたる。文章の長さは、6000字から7000字程度のもので、比較的長文といえる。

大学では、定められた教科書の学習ではなく、広い分野の文献を読み、的確に理解したうえで自身の研究に活かすことが求められる。専門的な学術研究を行うためには、様々な文献を読み解く力を身につけておく必要がある。そのため、比較的長文の読解を課すことを通して、その力量を測定したいと考えている。文章全体から要点を捉える能力、的確に文脈を読み取る能力、細部の意味を深く理解する能力を確かめたい。

古文は、例年、上代から近世までの説話・物語・随筆・日記など、さまざまな分野から出題している。著名ではないものからの出題もあるが、内容は明晰なものを選んでおり、過度な難問にならないよう配慮している。文章の長さは、800字～1200字程度である。

大学での学術研究には、古典的な文献の深い読解も求められる。そのための素地を、高校の古文の学習を通して身につけているかを確認することが、古文を出題する目的である。

現代文・古文ともに、語句表現や、文脈の適切な理解を問うことに重点がある。選択肢の設問では、語句表現の知識、文章の理解を深める上でポイントとなる箇所の理解を主に問うている。記述式の設問では、問いに関する本文の要点を、的確にまとめて文章化することを求めている。

(2)解答状況および解説

設問の順序は、おおむね、基礎的な知識を問うものからはじまり、文章理解のポイントとなる箇所・文章の展開を踏まえた内容の理解を問うものと続き、最後に本文の要点を捉える記述式の設問となっている。このような配列は、本文の内容を適切に把握しながら読解を進めていくことを企図したものである。設問内に引用した文章を本文とともに読み解く出題形式をとることもあるが、設問が進む毎に内容理解が深まるよう促すものであることに変わりない。

現代文の選択式設問は、語句表現の知識や、文章を的確に読解することで解答できる基礎的能力の測定を目的としたものであるため、正答率は比較的高い。古文の選択式設問は、辞書的な語句の意味を問う問題の正答率は高いが、文脈を踏まえた語句の解釈を求めると正答率が落ちてしまう。基本語句の習得に加え、文脈を把握する能力も求めている。また、和歌が絡んだ問題も正答率が低くなる傾向が見られるため、和歌の技法も踏まえて正確に解釈する能力を養っておいてほしい。

また現代文・古文ともに、本文との内容合致を問う問題を例年出題している。合致するものを選択肢の中から選ぶ形式が多いが、今年度の現代文では、合致するか否かの正誤を問う形式も導入した。設問と本文の記述を丁寧に比較検討することを求めている。

記述式設問は、設問に対する本文の要点を、現代文なら4つ、古文なら3つ程度捉えて、1文にまとめあげることが求められるものが多い。正答率は低い傾向にあり、誤答としては、要点の一部しか含まないもの、設問の語句を単に繰り返しただけのもの等が目立った。また、ニュアンスが合っているだけでは高得点には繋がらないので、文章全体に目を向け、問われた内容に関する鍵表現を押さえなが

ら端的にまとめられるようにして欲しい。字数の超過は0点にこそならないが大きな減点となる。誤字・脱字なども減点対象となるので、合わせて十分に注意して欲しい。

(3)受験生へのメッセージ

現代文に関しては、日頃からさまざまなジャンルの文章を積極的に読み、比較的長い文章にも慣れておいてほしい。設問として出題する文章は、論理的な展開のある内容のものを選んでいる。正確に展開を把握できれば、全体の要旨は理解できる。文章理解の鍵となる表現を捉え、それを用いて全体の要旨を40字でまとめるトレーニングは有効である。

古文に関しては、基本的な古語・文法の意味をきちんと理解しておくことがまず大切である。なお、融合問題の一部などで、時には漢文の出題もあることに留意しておいて欲しい。

現代文・古文ともに、受験生の実力を正確に計ることができるよう、奇をてらうことなく、十分に練った設問を用意している。存分に、実力を発揮してほしい。

◆国語◆ 出題の意図

102	出題の意図
一	「幽霊島」という不在の存在がもたらす意味について論じた文章から出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、「幽霊島」が現代の私たちにもたらす意味について記述解答することを求めた。
二	鎌倉時代に、阿仏尼が娘に向けて書いた手紙文から出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、阿仏尼が娘に伝えている内容について記述解答することを求めた。
103	出題の意図
一	ルネサンス期の読書習慣を話題にすることから、読書と記憶について論じた文章から出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、筆者の述べる「創意」に結びつく「記憶術」について記述解答することを求めた。
二	「源氏物語」より、左馬頭が過去の恋について友人たちに語った内容から出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、左馬頭が女のもとを尋ねなくなった理由について記述解答することを求めた。
104	出題の意図
一	都市に流れる時間の特性と、余暇の必要性について論じた文章から出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、筆者の「余暇」に対する考え方について記述解答することを求めた。
二	主の息子の代わりに自らの息子を犠牲にした藤原仲光の出来事を伝える、室町時代の語り物から出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、仲光が「自害」をすることを思い止まった要因について記述解答することを求めた。
105	出題の意図
一	多様な推論の方法について、特にアブダクション(＝遡及的推論)に重点を置いて論じた文章から出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、アブダクションの意義について記述解答することを求めた。
二	芸を生業とするものがもつべき心構えについて記された、江戸時代の文章から出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、筆者が批判している思案工夫のないふるまいについて記述解答することを求めた。
106	出題の意図
一	ランケと、マルクスとエンゲルスの歴史理解の捉え方について論じた文章から出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、筆者の述べるマルクスとエンゲルスの「近代」の捉え方について記述解答することを求めた。
二	童君の画策によって三位中將が女君への逢瀬を成就させたことが記された、中世王朝物語から出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、童君の計略の内容について記述解答することを求めた。
107	出題の意図
一	ドレイファスの人工知能批判を再考することを通して、テクノロジーについて思索する文章から出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、ドレイファスの議論の今日的意義について記述解答することを求めた。

二	不運によって亡くなった人物の魂が、同日に亡くなった別の人物の身体を得てよみがえったという中世の説話から出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、魂と身体それぞれの家族のその後について記述解答することを求めた。
---	--